それぞれの星

みずき　啓

それぞれにそれぞれの星海ほおずき

終戦日骨を哭かせてカラス飛ぶ

炎天の繋ぎたい手がどこにもない

太陽がいっぱい消えやすい少年少女

さえざえと古傷のあり夏の果て

紋白蝶むしゃりと毟る夏休み

道祖神手をつなぐ夜を蚊帳にねて

もう戦前なのか逆上がりまだできない

陽炎て故郷の母また痩せる

髪洗う青き乳房を狂わせず

先の会員、長澤奈緒子が熊本日日新聞社の、令和４年「熊日俳句大会　優秀作品」で秀逸に選ばれました。

赤のままあかい古墳に眠る人　　志野　咲